令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立新東三国小学校の結果概要

　平均正答率については、国語は大阪市平均を上回ったが、全国平均をわずかに下回った。算数は、大阪市平均、全国平均を上回った。平均無回答率については、国語、算数ともに大阪市平均、全国平均を下回った。
　国語では、「A話すこと・聞くこと」以外の内容で大阪市平均を上回り、「⑵情報の扱い方に関する事項」と「C.読むこと」については全国平均を上回った。「⑴言葉の特徴や使い方に関する事項」については2.2ポイント、「A話すこと・聞くこと」については3.5ポイント、「B書くこと」については1.4ポイント全国平均を下回り課題が見られた。
　算数は、どの領域についても、全国平均と大阪市平均を上回った。中でも「B図形」は4.2ポイント、「D変化と関係」は3.1ポイント、「Eデータの活用」は4.1ポイント、全国平均を上回った。
　児童質問紙では、「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目については、肯定的回答が大阪市平均、全国平均を大きく上回った。「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」については、１０分以上読書する児童の割合が大阪市平均・全国平均を上回った。一方、「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てを工夫して発表していましたか」の項目について全国平均と・大阪市平均を下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】
　「⑵情報の扱い方に関する事項」と「C.読むこと」については、大阪市平均・全国平均を超えた。これは、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や学力向上支援チーム事業などによる授業改善の成果が出たと考えられる。一方、「⑴言葉の特徴や使い方に関する事項」と「A話すこと・聞くこと」と「B書くこと」は全国平均を下回っている。授業では話合い活動を積極的に取り入れたり、自分の意見を記述したりすることも重視しているが、形式や視点の提示などの工夫が十分ではないと考えられる。また、読み取った内容をどのように解釈し、自分の考えを形成していくかも課題であると考えられる。
【算数】
　算数では、すべての内容について、大阪市平均・全国平均を上回った。これは、きめ細やかな個に応じた指導や学習者用端末を活用しての基礎基本の定着を図った成果であると考えられる。しかし、「D変化と関係」と「Eデータの活用」については、平均正答率が50%程度だったことから、事象を数学的に捉え、そのデータを読み取り、論理的に考察する力の育成が不十分であると考えられる。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」と「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について肯定的な回答が大阪市平均・全国平均を上回ったのは、普段から教師や友達などからよいところを見つけてもらったり、自分の言動を認められ評価される経験からであると考えられる。「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」については、

30分未満の児童の割合が多かったことから、読書の楽しさやよさを十分に分かっていない児童が多いと考えられる。
　一方、「５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てを工夫して発表していましたか」の項目について全国平均と・大阪市平均を下回った。このことから発表時の支援の仕方に課題があると考えられる。

今後の取組（アクションプラン）

〇国語と算数については、引き続き以上に一人一人に応じたきめ細やかな支援を行い、基礎・基本が定着するようにする。それとともに、様々な場面で自在に使えるようにするために、覚えるだけでなく理解できるよう、話合い活動などで多様な考えに気付き、納得し、考えを深めていけるような授業をめざす。そのために、児童の日常の経験と授業で学習したことを結び付けられるようにし、理解を深めていけるようにする。また、学級の児童が友達の意見の価値を感じられるような支援を、話合いや発表の際に行い、互いの意見を尊重し、自分の考えを構築する助けになっていると感じられるようにしていく。
〇今年度、本校で進めている道徳科の授業研究で、話合い活動の工夫を検討し、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしていく。また、今年度のテーマである「個別最適な学び」について教職員全員が理解を深め、授業の中で実現することをめざす。それにより、児童一人一人の学習への理解を深めるとともに、児童が道徳性を養い、節度をもって行動したり、頑張り抜く強い心をもったり、友達と信頼や友情を育んだりして、安心して充実した学校生活を送れるようにしていく。